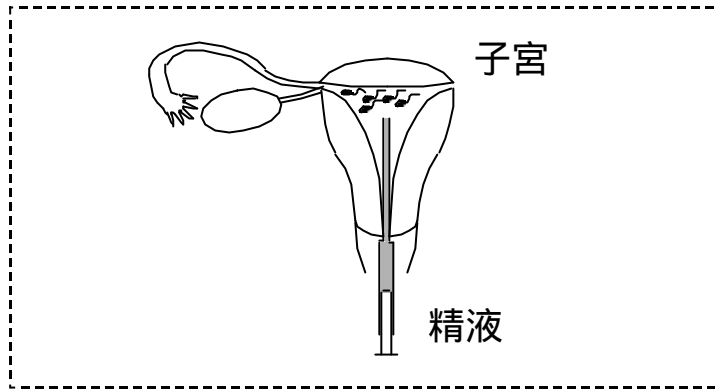


# 生殖補助医療について

# 1. 人工授精

## (1) 概要

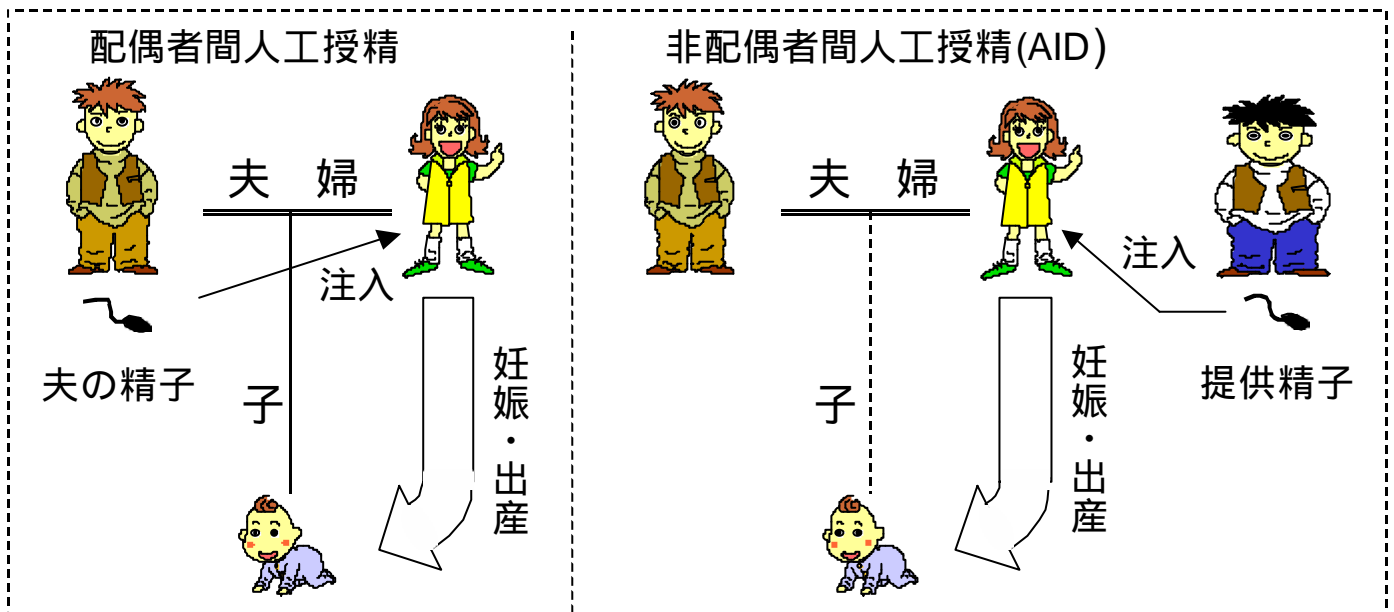
精液を注入器を用いて直接子宮腔に注入し、妊娠を図る方法。  
乏精子症、精子無力症などの夫側の精子の異常、性交障害等の場合に用いられる。



精子提供者の種類によって、以下の2つに分類される。

配偶者間人工授精 (AIH; Artificial Insemination with Husband's semen)

非配偶者間人工授精 (AID; Artificial Insemination with Donor's semen)



## (2) 実績

厚生省研究班による推計 (平成11年2月現在)

現在・過去に治療を受けた方 344,800人

子供が産まれた方 37,800人

日本産科婦人科学会による集計 (平成11年実績)

A I D の患者総数 1,134人

A I D による出生児数 221人

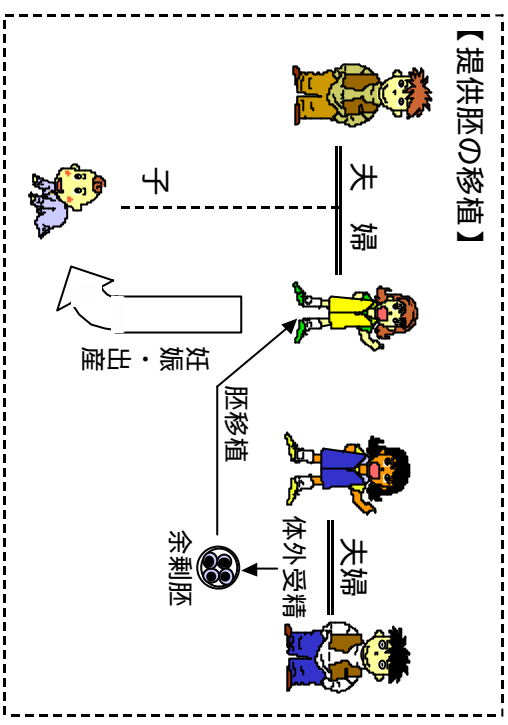
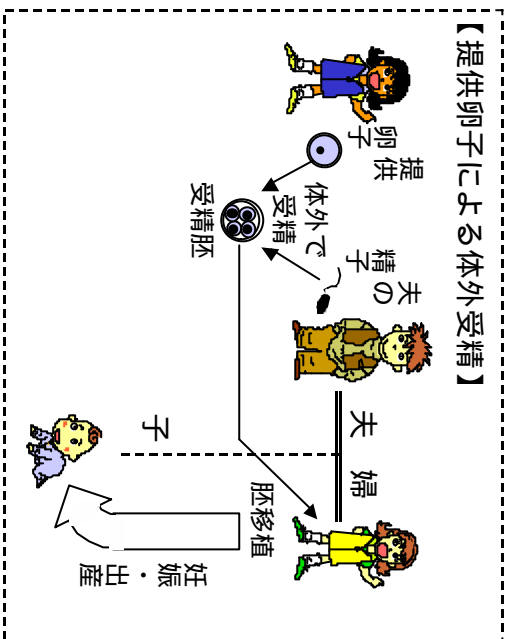
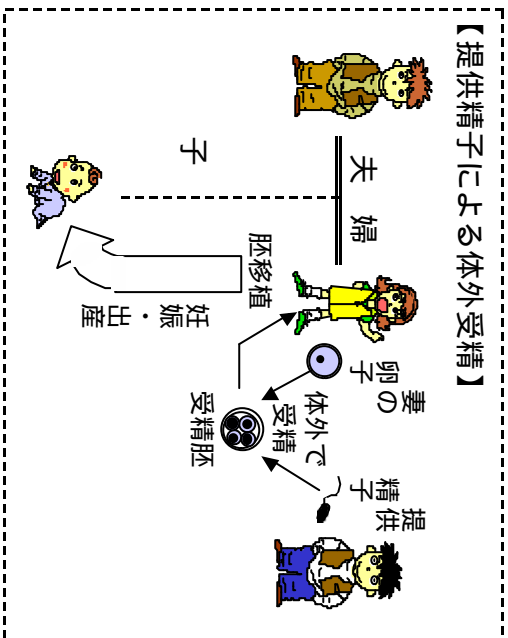
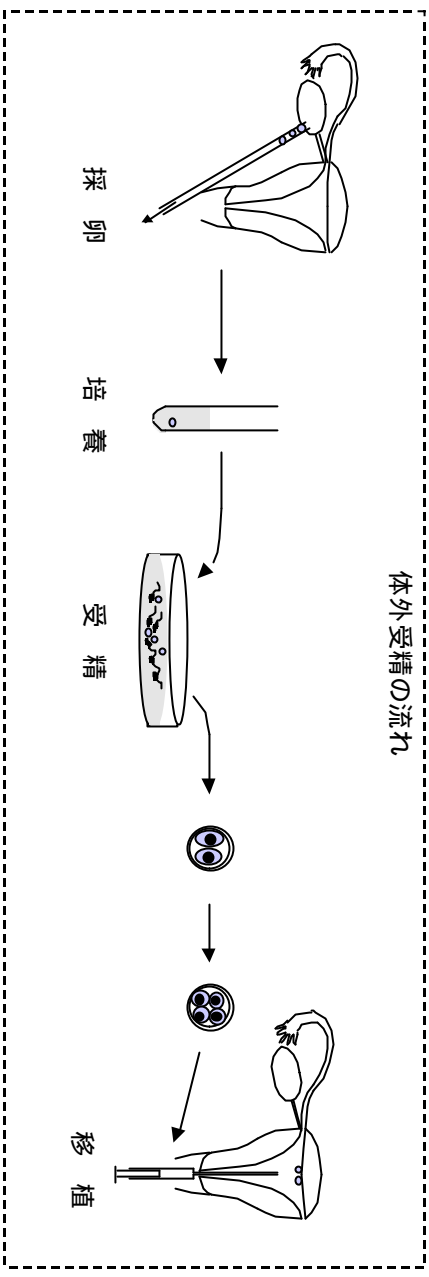
## 2. 体外受精・胚移植 (IVF-ET; In Vitro Fertilization-Embryo Transfer)

(1) 概要

人為的に卵巣から取り出した卵子を培養器の中で精子と受精させ、受精後の受精卵や受精胚を子宮腔や卵管に戻し、妊娠を期待する方法。高度の卵管通過障害による不妊症などに対する治療として用いられる。

精子・卵子・胚の提供者の種類によって、

- 配偶者間体外受精
  - 非配偶者間体外受精
  - 提供精子による体外受精
  - 提供卵子による体外受精
  - 提供胚の移植
- 現在は日本産科婦人科学会の会告で禁止に分類される。



(2) 実績 (日本産科婦人科学会による集計)

新鮮胚を用いた体外受精 (平成11年実績)

患者総数	24,319人
出生児数	5,870人
累積出生児数	37,969人

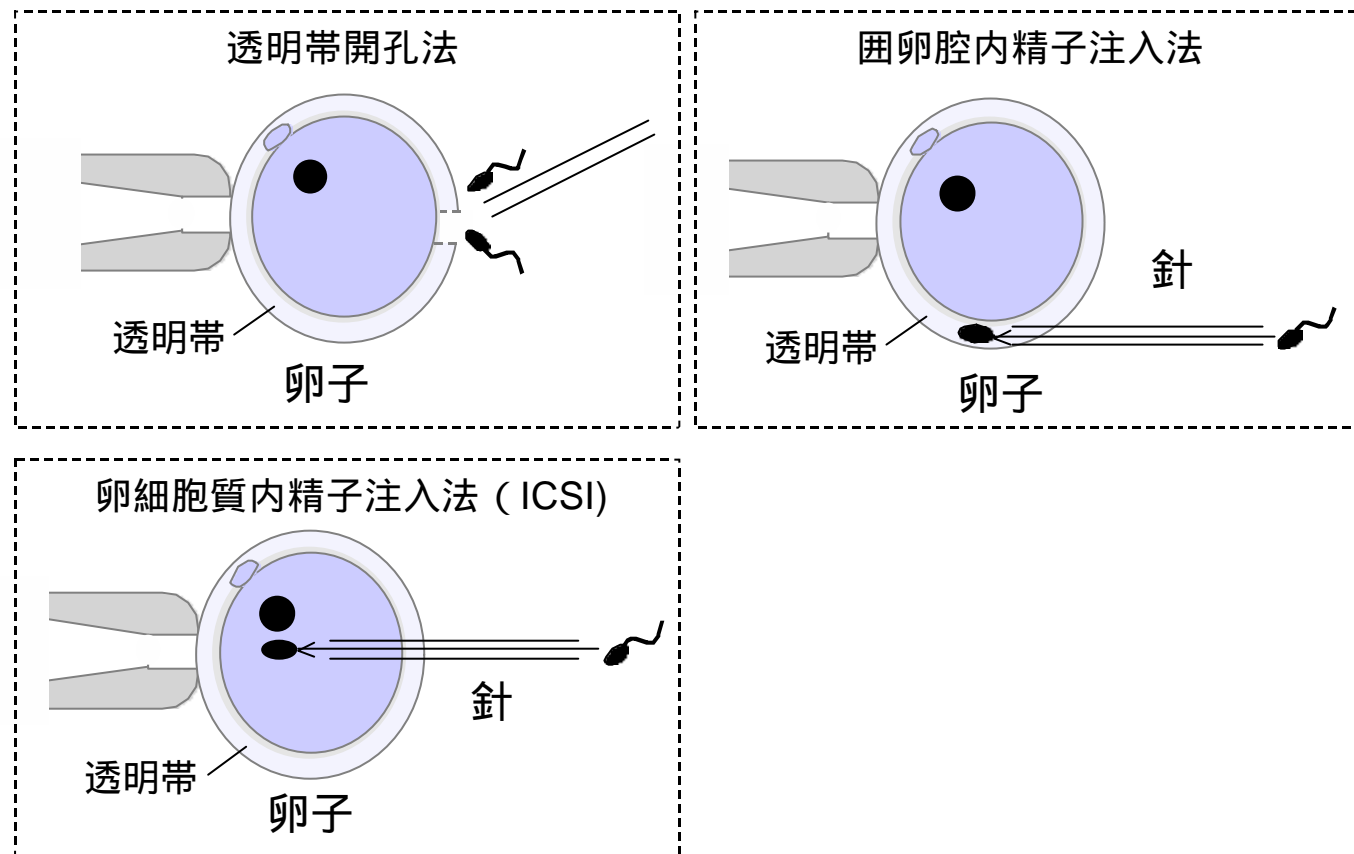
凍結融解胚を用いた体外受精 (平成11年実績)

患者総数	7,542人
出生児数	1,811人
累積出生児数	5,305人

### 3 . 顕微授精

#### ( 1 ) 概要

精子減少症、精子無力症等により通常の体外受精で受精しない場合に受精率向上ためにおこなわれる受精操作方法。精子を一つのみ選択し、卵細胞質内に針を刺して注入し受精させる方法(ICSI)が一般的。



#### ( 2 ) 平成11年実績 (日本産科婦人科学会による集計)

患者総数	15,849人
出生児数	4,248人
累積出生児数	16,260人

## 4 . 代理懐胎（代理母、借り腹）

### 代理母

妻の卵子が使用できず、かつ妻が妊娠できない場合に、夫の精子を妻以外の第三者の子宮に医学的な方法で注入して妻の代わりに妊娠・出産してもらう方法

### 借り腹

夫婦の精子と卵子は使用できるが、妻が妊娠できない場合に、夫の精子と妻の卵子を体外受精して得た胚を妻以外の第三者の子宮に入れて、妻の代わりに妊娠・出産してもらう方法

